

開催日:2024年10月20日(日) 18:00~20:00

Zoomによるオンライン会

参加者:清水(49C)、阿部(修 46 S)、佐野(62W)、奥山(52E)、松永(47C)、二宗(46M)

以上は東海連合支部で、以下は他支部

荒井(修 46C)、松原(修 56C)、倉林(44C)、田辺(49P)、久保(49E)、岩木(49L)

福島(修 50C)、金井(修 46C)、田野崎(52K)、澤木(49E)、小西(修 49C)、

森口(50E)、中村(修 54C)、小林(H4E)、笠谷(H18C)、斎藤(56S)、星野(修 56C)

合計 23名

この会も31回目となり、最近では関東から四国までの支部の会員で毎回20数名の方々が参加している。参加者は現役の人や会社を退社して第2の人生を送っている人と様々であるが、共通して言えることは、皆さん元気でポジティブな人が多い。

毎回参加者の中から、皆さんに聞いてほしいテーマについてプレゼンしてもらっている。

そろそろ2巡目に入ってきて、今回は愛知支部の清水さんに話してもらったことになった。

清水さんは自分がプレゼンするという事で、寮時代の友達に声をかけた結果、3名の初参加者があった。こういう風に「草の根」的に参加者も広がってきている。



清水さん

今回のプレゼンテーマは「ヒマラヤ展望ハイキング体験談」であり、この旅行に参加した動機やツアーの様子を次のように話してくれた。

23年2月に激しいめまいに襲われ救急車で病院、病院の薬が効いてその後のめまいはなくなった。

9月初めに北アルプスの登山に参加したとき、雨と重い荷物がこたえ、下山で大幅な時間がかかり、体力の限界を感じた。しかし1日で約1000m登れたというかすかな自信も持てた。

もう一つは、コロナで4年近く海外旅行に行っていないこと。



ダーズリンに、向かう途中

これらの二つからこのツアー参加を決意した。

飛行機を乗り継いでインドに入り、四輪

駆動車でダーズリン(標高2134m)さらにサンダクプー(標高3636m)まで移動。次の日は早朝から朝日に照らされて空に浮かぶ8000m級の山々を撮影。車で移動し、草原の丘も散策。

次の日も凍り付いた岩山の展望台からエベレストなどの山々が見えたのは幸運。



ダーズリンのホテルから

旅行から帰った後、写真集を作成して参加者に配ったり、旅行中に知り合った人(日本人、インド人)との交流が始まった。

またこれからの体力維持のため、国内近場を中心に毎週1回を目指して山歩きの訓練を続けている。



ヒマラヤの三座